

## めざせ！高品質・安定生産あおば大麦！！

大麦の安定多収をめざすには、稲刈り直後からの排水対策と9月末からの適期播種による年内生育量の確保が必須です。

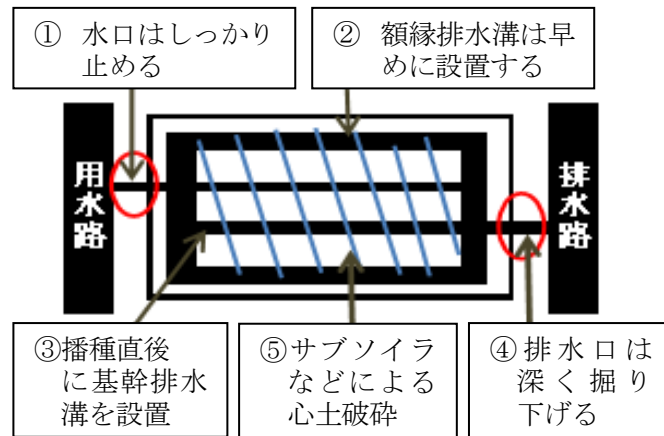
### 1 排水対策の徹底 …稲刈り直後から、排水対策を開始

#### ○播種前の排水対策

稲刈り直後に、心土破碎により透水性を高めるとともに、額縁排水溝と長辺方向に7～8m間隔の基幹排水溝を設置し、圃場の排水に努めましょう。

#### ○播種時の排水対策

畝幅は3m以内とし、溝幅30cm、溝深さ20cm以上の排水溝を設置し、必ず額縁排水溝及び深く掘り下げた排水口と連結しましょう。また、播種作業でくずれた溝の手直しも行いましょう。



### 2 土づくり・基肥 …土づくりの実践と的確な基肥施用

○苦土石灰は、10a当たり100～200kgを耕起前に施用し、土壌のpHを6.0～6.5に調整

大麦は酸性土壌では生育不良となるので、耕起前に土壌pHを測定し、pH6.0～6.5を目標に苦土石灰を施用しましょう。また、カリ資材や堆肥等有機物も積極的に施用しましょう。

表1 土壌のpH調整に必要な苦土石灰の施用量の目安(10a当たり施用量)

作付前の 土壌 pH	目標 pH	洪積		沖積	
		黒ボク土	赤土	粘質土	砂質～壤質土
5.5 未満	6.0～6.5	200kg 以上			
5.5 以上	6.0～6.5	200kg	150kg	150kg	100kg

○基肥は基準量を目安に地力に応じて施用しましょう。

表2 基肥量の目安(10a 当たり施用量)

施肥体系	施用量
肥効調節型(基肥一発)	LP 大麦 48号で 45kg
分施	BB555 で 35kg

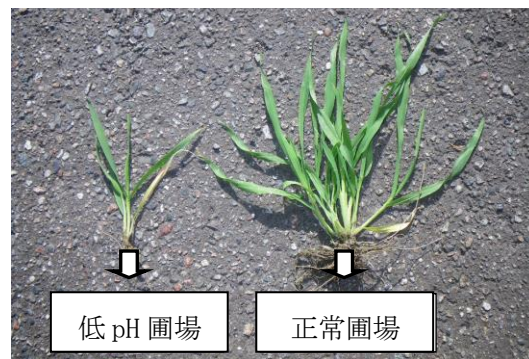


写真1 土壌 pH と大麦の生育

### 3 適正播種と除草 …早めに準備し、9月末からの適期播種と適切な除草剤対応

#### ○種子消毒

・雲形病等の発生を防ぐため、種子消毒は必ず行ってください。「ベンレートT水和剤 20」を、乾燥種子重量の0.5%湿粉衣しましょう。(種子10kgに薬剤50gを入れ、水200mlを加えて均一に混ぜる)

#### ○播種作業

・播種は、圃場が乾いた状態で行い、耕起・播種・作溝の一連の作業は、1日で完了させましょう。

・トラクターの速度を低速にし、砕土率60%以上を確保しましょう。

#### ○播種量の目安

・播種時期に応じた播種量で目標苗立数を確保しましょう。

・ドリル播きでは、播種の深さは3cm程度に設定してください。

表3 苗立数と播種量の目安(10a 当たり播種量)

播種期	目標苗立数(本/㎡)	ドリル播き	表面散播
9月25～30日	140	6.0kg	6.5kg
10月上旬	150	6.5kg	7.0kg
10月中旬	200	8.5kg	9.0kg

(土壌水分が高い場合は表面散播に切り替える)

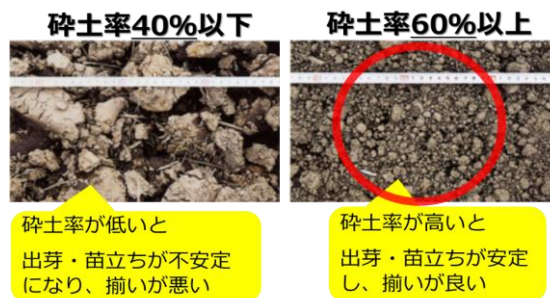


写真2 砕土率と苗立ち

★排水状態が不良の場合は、無理に播種作業を行わない!!

# ～ 2019 年産大麦重点技術対策 ～

## ①播種直後～発芽前の除草対応

※近年ドリル播圃場で、雑草繁茂による収量減の事例が多発しています！

下記を参考に播種後の除草剤を施用しましょう。

### ☆使用できる除草剤（表面散播では使用しない）

#### ・トレファノサイド粒剤 2.5

使用時期：播種後発芽前

使用量　： 4～5 kg/10a

#### ・キックボクサー細粒剤 F

使用時期：播種後出芽前（雑草発生前）

使用量　： 3～4 kg/10a

#### ・ボクサー（乳剤）

使用時期：播種後～麦2葉期（雑草発生前～発生始期）

使用量　： 400～500 mlを水70～100 l/に希釈

### ◆使用上の注意

- ・大麦の発芽前に使用する土壌処理剤では、種子が露出していると薬害の恐れがあるため、碎土率を高め、播種深度3cm程度の確実な覆土を確認する。
- ・土壌が極端に乾いていると効果が劣るので、降雨後など適当な土壌水分の時に処理する。
- ・散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を控える。

大麦は出荷・販売数量に対し品質区分に応じた数量払いが交付されます  
播種作業からの単収・品質向上対策に努めましょう。